

8. 神奈川県

マイクロチップによる所有明示の推進について

神奈川県保健福祉局生活衛生部生活衛生課
動物愛護グループ 佐藤 裕郁

平成26～29年度に実施したモデル事業全体の概要

- 平成26年度にアンケート調査実施
- 対象は、県民、ペットショップ、動物病院
- 明確になった課題に取組み、マイクロチップを推進

内容

アンケート調査により明確になった課題に取組み、マイクロチップ推進

- 1 周知を行っているペットショップは16.3%
- 2 MC装着済・登録不明の飼い主が50.9%
→ペットショップ用リーフレット作成(登録の重要性を強調)
- 3 MCを勧めている動物病院は43.5%
→動物病院用DVD作成
- 4 MCリーダー設置施設が分からない
→MCリーダー設置施設の公表
- 5 装着の費用が高い
→収容犬猫をMC装着後に譲渡

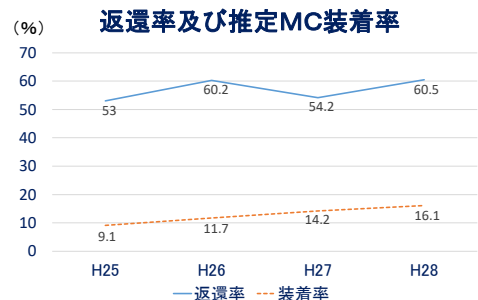
実施体制

- ・環境省、神奈川県
獣医師会・ペットショップとの連携体制の構築、普及啓発イベント実施
- ・県内市町村
リーフレットによる普及啓発
- ・(公社)神奈川県獣医師会:普及啓発の協力
- ・ペットショップ:普及啓発の協力

成果及び評価

- 1, 2について:普及啓発リーフレット配布
- ・県民:4,184部(28年度)
 - ・動物病院:28,550部(28年度)
 - ・市町村:13,330部(28年度6,700部、29年度6,630部)
 - ・ペットショップ:8,000部(28年度)
- 3について:DVDを71自治体(118枚)に配布
- 4について:マイクロチップリーダー設置施設について、次のとおり公表
- ・行政機関:15か所、動物病院:178か所、ペットショップ:9か所
- 5について:県動物保護センター譲渡犬猫についてマイクロチップを装着
- ・H27年度:犬133頭、猫52頭に装着
 - ・H28年度:犬201頭、猫169頭に装着

成果及び評価



成果から明らかになった課題と 課題解決の方向性

- 効果的な周知方法について工夫が必要
→ 狂犬病予防集合注射時にリーフレットを配布
動画については、DVDだけでなくインターネット
上においても閲覧できるようにする
- 装着後の登録の意識が低い
→ 啓発時に登録の重要性も普及啓発

9. 徳島県

モデル事業

「マイクロチップ装着の推進」

徳島県

動物愛護管理センター

モデル事業の概要

MC推進の理由

返還率の向上

(H26 犬9.3%、猫0.3%)

南海トラフ巨大地震への備え

「終生飼養」に対する飼い主意識の向上

背景：獣医師会加入動物病院、保健所、動物愛護

管理センターでのMCリーダー配備済

H28年度は県内警察署へも配備

事業概要

- ・県獣医師会（小動物病院）、動物取扱業者、市町村との協働によるMC推進

- ① 販売個体へのMC埋め込み
- ② 動物取扱業者、動物病院からのMCメリット説明
- ③ MC埋め込み費の軽減
- ④ 飼い主の特典（動機付け）

- ・動物取扱業者等のMC理解
専門知識を有する講師による研修

飼い主とペットの絆づくり事業

～オールワン・ニャンスマイルプロジェクト～

参加・協力いただける業者さんを募集します！！

事業目的

動物取扱事業者の協力をいただき、
①迷子ペットの防止、②終生飼育、③狂犬病注射の徹底、④飼い主モラルの向上を図ります。

協力いただくこと

犬・猫販売業者

販売犬・猫へのマイクロチップ装着
販売犬の登録・狂犬病予防注射の実施・推進
動物愛護管理センター提示板の設置
クーポン冊子の特典サービス提供

保管・訓練業者

マイクロチップ装着の推進（説明とリーフレット配布）
預かり犬の登録・狂犬病予防注射の確認と推進
動物愛護管理センター提示板の設置
クーポン冊子の特典サービス提供

展示業者

啓発資材（リーフレット・ポスター）の設置
動物愛護管理センター提示板の設置
クーポン冊子の特典サービス提供



「協力力が強いし、まずわんにゃん」

協力いただける業者さんは、

県が発行する 新ペット専門クーポン冊子に、**協賛事業者として広告を掲載**します。
（クーポン冊子発行のため、広告費として年度ごとに5千円/頁の費用を負担いただきます。）

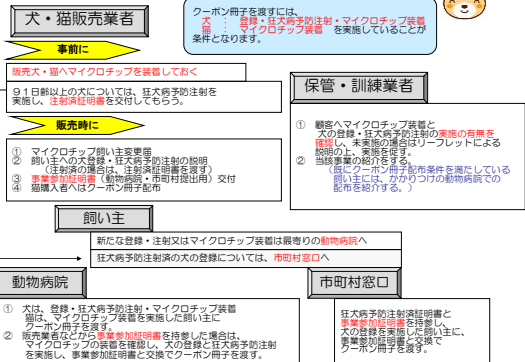
クーポン冊子



啓発記事 広告掲載例

表紙

クーポン冊子配布の流れ



9. 徳島県

獣医師会の協力

- ・ 県内43／53病院がMC推進に協力
- ・ 事業実施にあたり、
3千円（登録料込）で施術
★不妊去勢手術時の施術は登録料のみ



- 飼い主負担の軽減
- 獣医師からの説得力ある説明
- AIPOへの登録の一元化

成果

- ・ 県内MC登録頭数
H27年3月末(モデル事業開始年度)
3,241頭
(犬2,680、猫548、他13)

H29年12月末
7,019頭
(犬5,270、猫1,735、他14)

3,778頭の増加(犬2,590、猫1,187、他1)

課題

- ・ MCに対する理解が進まない
- ・ 動物病院、動物取扱業者の意識の差
- ・ MCのメリットが実感できない
- ・ 二重の登録制度による飼い主負担
- ・ 業者独自のMC登録窓口
- ・ 動物病院へ行かない飼い主

課題解決に必要なこと

- 動物病院や動物取扱事業者の理解
→ 飼い主への効果的な周知
- 登録制度の一元化
- 実感できる飼い主メリット

根底には、飼い主の意識改革

「人と動物が幸せに暮らす社会の実現プロジェクト」モデル事業 報告会資料

平成30年2月19日

香川県 健康福祉部 生活衛生課

2 事業の概要

◆実施テーマ

マイクロチップ（MC）等所有明示の推進

◆実施期間

H26・27年度（26.11～28.3の1年5か月）

◆モデル地域

香川県三豊市高瀬町（5,850世帯、16,000人）

参考：香川県全体（401,000世帯、972,000人）

3 実施内容・実施体制

① マイクロチップの普及状況等に関する実態の把握
（住民等を対象としたアンケート調査）

② 調査結果をもとに事業内容を検討

③ マイクロチップに関する啓発活動を展開
（講演会の開催、啓発ツールの作成など）

④ 啓発効果の検証（2回目のアンケート調査）

① マイクロチップの普及状況等に関する実態把握

◆アンケート調査の対象者

- ・世帯：モデル地域内の4,000世帯（全5,850世帯から無作為抽出）
リーフレット「マイクロチップはペットとあなたを結ぶ絆です」を同封
- ・ペットショップ：県内（中核市を除く）の事業所 161件
- ・獣医師：香川県獣医師会に所属する動物病院 66件

◆実施方法

- ・調査票を郵送

◆実施時期

- ・平成27年2月

アンケート結果（世帯）

- ◆犬を飼育している 454/1,400（飼育率 32.5%）
 - うち 所有者明示あり 98/454（実施率 21.6%）
 - うち MC装着あり 16/454（装着率 3.5%）
- ◆猫を飼育している 257/1,400（飼育率 18.4%）
 - うち 所有者明示あり 22/257（実施率 8.6%）
 - うち MC装着あり 3/257（装着率 1.2%）

アンケート回収率 1,400/4,000世帯=35%

MCを装着していない理由は？（複数回答）

◆犬の場合

- 1位 存在自体を知らない 46.2%
- 2位 室内飼育で迷子になることがない 16.9%
- 3位 痛そうでかわいそう 15.7%
- 4位 費用が高い 15.3%
- 5位 特に理由はない 14.6%

◆猫の場合

- 1位 存在自体を知らない 44.7%
- 2位 室内飼育で迷子になることがない 23.6%
- 3位 痛そうでかわいそう 17.3%
- 3位 特に理由はない 17.3%
- 5位 費用が高い 14.3%

10. 香川県

アンケート結果（ペットショップ）		
7		
MC装着の問題点は何だと思うか？（複数回答）		
1位	異物を埋め込むことに対して理解が得られにくい	51.1%
1位	費用が高い	51.1%
3位	装着されているか外見からは分からない	48.9%
4位	飼い主情報の管理が一元化されていない	46.8%
5位	読み取りにリーダーが必要	40.4%
MC装着を推進する上で行政に求められる支援の内容は？（複数回答）		
1位	施術等に対する費用補助	80.9%
2位	利点についての普及啓発	46.8%
3位	装着をしている店を行政がPR	19.1%

アンケート結果（獣医師）		
8		
MC装着の問題点は何だと思うか？（複数回答）		
1位	飼い主情報の管理が一元化されていない	51.2%
2位	読み取りにリーダーが必要	32.6%
3位	装着されているか外見からは分からない	27.9%
3位	異物を埋め込むことに対して理解が得られにくい	27.9%
5位	費用が高い	25.6%
飼い主が装着を希望しない（迷っている）理由は？（複数回答）		
1位	費用が高い	53.5%
2位	メリットがない	37.2%
3位	動物がかわいそう	34.9%

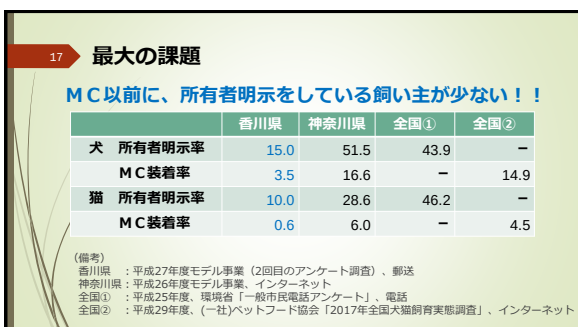
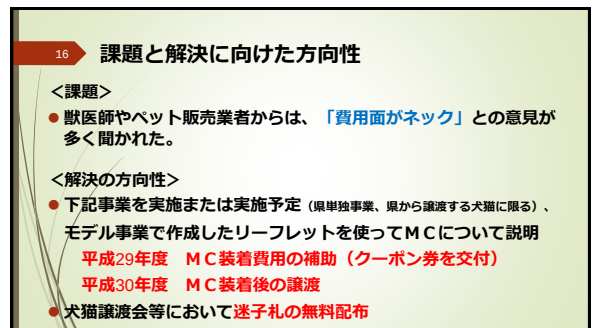
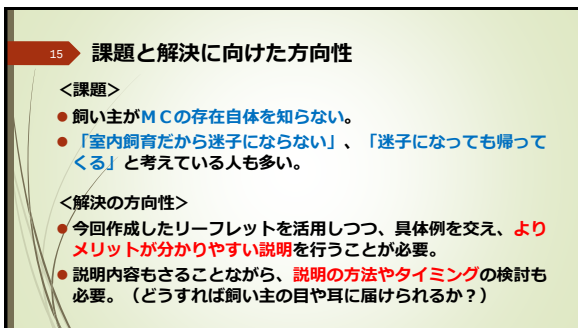
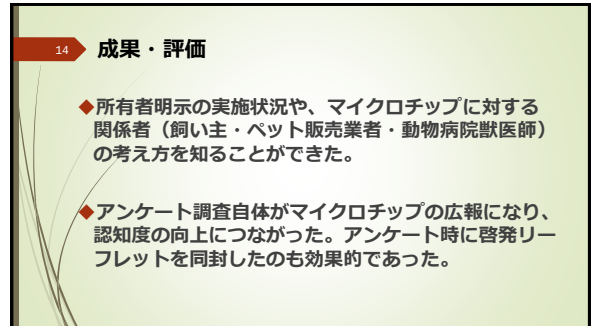
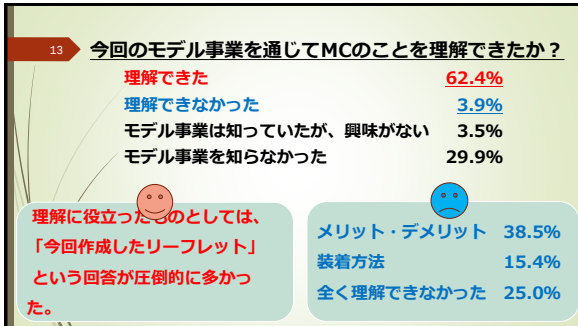
② 調査結果をもとに事業内容を協議・検討	
9	
◆開催日	・平成27年3月27日
◆出席者	・環境省 ・香川県（本庁・保健所） ・三豊市 ・公益社団法人香川県獣医師会
◆内容	・実施状況についての情報共有 ・次年度事業についての意見交換
<課題> × マイクロチップ自体が知られていない！ × 所有者明示をしている飼い主が少ない！ <対策> ○ “説明しやすい”啓発資料の作成 ○ 専門家による講演会の開催 ○ 地域密着型の広報（ケーブルテレビ等）	

③ マイクロチップに関する啓発活動の展開
（講演会の開催、リーフレットの作成など）

10

④ 啓発効果の検証（2回目のアンケート調査）	
11	
◆調査対象	・モデル地域内の4,000世帯 ※モデル事業で作成したリーフレットを同封
◆実施時期	・平成28年2～3月（最初の調査から1年後）

④ 啓発効果の検証（2回目のアンケート調査）	
12	
◆犬を飼育している	314/1,112（飼育率 26.6%）
うち 所有者明示あり	47/314（実施率 15.0%）↓
うち MC装着あり	11/314（装着率 3.5%）→
◆猫を飼育している	160/1,112（飼育率 13.6%）
うち 所有者明示あり	16/160（実施率 10.0%）↑
うち MC装着あり	1/160（装着率 0.6%）↓
アンケート回収率 1,112/4,000世帯＝28%	



岡崎市猫のマイクロチップ 装着推進事業 事業報告

岡崎市動物総合センター
松村 雅子



事業内容・実施体制

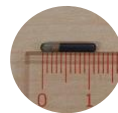
避妊去勢手術



○対象となる猫
これから避妊去勢手術を行う
市内で飼養されている飼い猫

○条件
AIPOへの登録を必ず行う
(登録手数料は実費)
市へ猫の飼養届出書を提出

マイクロチップの 無料装着



MCは市が一括購入し、
協力動物病院へ預託

岡崎市獣医師会＋市内動物病院へ呼びかけ、
事業へ協力いただいている動物病院

H26～28 委託料なし
H29 事務処理委託料
(技術料は無償)

平成27年度 啓発用リーフレットの配布を受けました



神奈川県作成



徳島県作成



香川県作成

協力動物病院及びペットショップへ配布

成果及び評価

協力動物病院数、装着数、未登録者割合

	H26年度 (6～3月)	H27年度	H28年度	H29年度 (H29. 12月 末現在)
協力動物病院数 ()内は対象となる動物 病院数	24 (26)	27 (27)	27 (27)	26 (26)
MC装着数 ()内は各年度12月末 現在の実績	486 (308)	473 (317)	554 (387)	318
未登録者割合 (%) (平成30年1月31日現在)	8. 4	8. 2	7. 0	

平成26年度事業開始3か月経過後アンケート

対象24病院中17病院より回収
回収率70%

【装着しない理由】

室内飼いで不要	41%
装着することにメリットを感じない	29%
登録料1,000円が必要	23%
飼い主判明で、責任になるから	23%
猫に所有者明示は不要	23%
手続きが煩雑	17%
その他	23%

メリットがデ
メリットにと
らえられるこ
とも。

猫への所有者明示そのものが浸透していない。
猫を飼う上で、『万が一』という概念が欠けている。

【装着率UPに必要なこと】

MCのメリットの普及啓発	64%
条例を含む法の整備	58%
登録料金の無料化	17%
その他	35%

- ・ 野良猫という概念をなくす啓発・努力がもっと必要。外飼いの飼い主ほど不要と感じている人が多いと思う。
- ・ 将来的には義務化がなければずっと中途半端な制度
- ・ まず猫からというのは難しいのでは。
- ・ ペットショップへの普及啓発
- ・ 本事業を知っている人がほとんどいない。
- ・ 獣医師の意識改革
- ・ 法の整備をすると、猫を飼う人が減ってしまうのでは。

平成27、28年度事業実施アンケート

【実施して良かった点】

回収率100%

	H27	H28
飼い主としての意識向上	25%	25%
費用面での障壁の除去 (すすめやすい、ハードルさがる等)	11%	3.7%
飼い主のMCの意識向上	0	22%
飼い主が喜ぶ	3.7%	7.4%

その他

○ H27

- 猫の適正飼養、管理の第一歩としてはよいが、次のステップがないと無意味
- MCの説明の機会が増えた
- 飼い主の飼い猫に対する考えを聞きかけ
- 首輪だけでなく、飼い主名・連絡先もつける方が増えた

○ H28

- 地震で迷子になるのを心配していた飼い主が安心してた
- 野良猫を減らす一助になった



【実施して悪かった点】

- 手続きが面倒
- 対象外の犬や猫についての問い合わせが多い
- 必要性をわかりやすく説明することに苦慮
- 事業をすすめた際、強制的と捉えられ苦慮した
- 装着後、登録をなかなかしない飼い主がいる
- 病院内のMCの利用が減少した

等々



平成28年度 前年度より装着数が10個以上増えた動物病院を対象としたアンケート

対象4病院 回収率100%

【増加した理由】

飼い主から依頼されることが増えた	0
手術の依頼を受けた際に必ず案内するようにした	100%
環境省作成のパンフレットが有効であった	0
ポスターを院内に掲示するようにした	50%
理由は不明	0

- MCを希望する方としない方では飼い方に差があるように感じる。
- 装着した方に手術の補助金を出すぐらいしないと難しいのでは。それぐらい大きなメリットがないと飼い主には響かないと思う。
- 獣医師側の書類の手続き・整備が面倒なので他の病院では伸び悩んでいる？
- 通常4000円が無料というのだいたい装着してもらえる。
- マイクロチップの浸透が少しずつ進んできている印象
- どんどん増えていくには、動物病院の協力が必要

考 察

- 所有者明示意識が低く、さらにMCが浸透していないため、MCの無料装着が飼い主にとって魅力ではない
- 動物病院の獣医師自体にMCが浸透していない → 積極的な案内が難しい
- TNR等事業対象外の猫の避妊去勢手術が多い？

装着数の伸び悩み

課題と解決の方向性

- 猫の現状について理解を得る必要
- 獣医師に対する普及啓発も大切

動物病院の獣医師の協力は
欠かせない！！

本事業により、
啓発効果が
大きかった



今後について

- 平成30年までは事業を継続して行う
- 事業終了後の方向性を検討

マイクロチップ等所有明示
の推進について



鹿児島市
保健所生活衛生課

平成28～29年度に実施した
モデル事業全体の概要(目的)

- ・飼い主のマイクロチップに対する認知度の向上及びマイクロチップ装着の普及促進に資することを目的とする。

平成28～29年度に実施した
モデル事業全体の概要

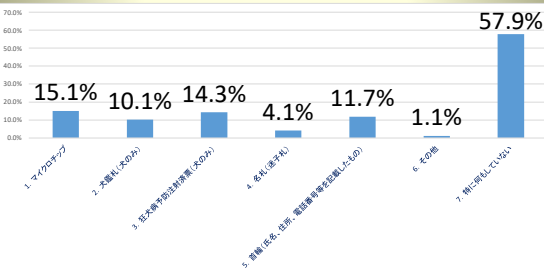
- ・(公社)鹿児島県獣医師会、鹿児島地区獣医師会との連携協力のもと、動物病院における犬猫の受診時にマイクロチップ(以下MCという)装着等の実態調査を実施。
- ・飼い主に対し、MCの有効性等の説明を行い、所有明示の必要性の周知・啓発、終生飼養等の意識向上を図る。
- ・希望飼い主の犬猫へMC装着を実施するとともに、装着後の影響等について調査を実施。

内容・実施体制

- (鹿児島市)
- ・MC装着の普及啓発
 - ・獣医師会等関係機関との連絡調整
- ((公社)鹿児島県獣医師会、鹿児島地区獣医師会)
- ・MCリーダー、MC等の環境省支援品等の受入れ、動物病院への配布
 - ・鹿児島市、動物病院との連携調整
- (鹿児島地区獣医師会会員の動物病院等50施設)
- ・犬猫のMC装着確認、実態調査等(アンケート調査)
 - ・パンフレット等の配布による飼い主へのMCの説明等
 - ・希望飼い主の犬猫へのMC装着
 - ・AIPO登録手続きの説明 等

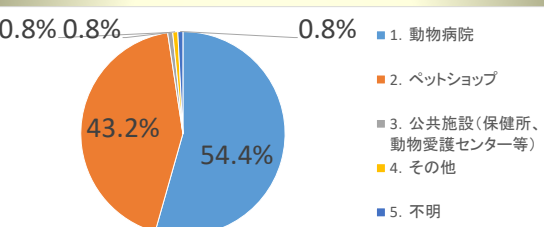
成 果

「飼い主が誰であるかわかるように装着しているもの」についての調査結果より、特に何もしていない飼い主が、6割弱いた。



成 果

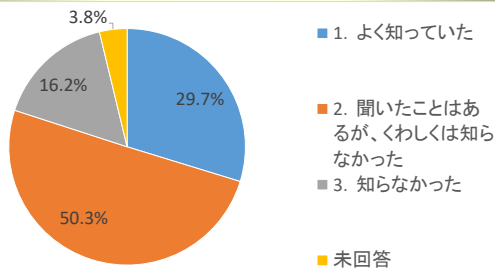
「MCを装着した場所」の調査結果より、動物病院(54.4%)やペットショップ(43.2%)において、ほとんどの装着が実施されていることがわかった。



12. 鹿児島市

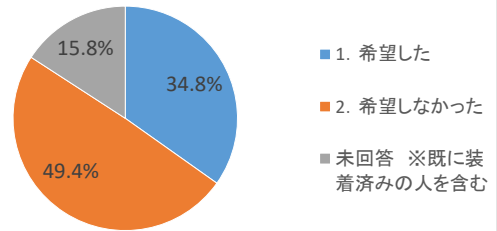
成 果

「MCについて」、知らない、または、くわしくは知らない
と答えた飼い主が66.5%とかなり多いことがわかった。



成 果

MCの説明を約8割の人が実際に受け、ほとんどの
人が利点をほぼ理解できたと回答したにもかかわらず、
MCの装着を希望しない飼い主が約半数と装着
に抵抗感を持っている飼い主が多いことがわかった。



評 価

- ペットショップでの装着が4割強を占めていることから、ペットショップにおいて装着された犬猫が販売されているというMCの普及状況が確認された。
- 写真入りのパンフレットは視覚で理解できる。
- 獣医師会の協力が得られ、MC装着に係る費用を抑えられたこと、また、パンフレットを利用して飼い主に説明できたことが、MC装着の動機付けの一助となり、装着の推進が図られた。
- MCの装着を希望した飼い主の約80%が実際に装着したという結果については、今回、獣医師会が装着費用を安価にしたこと、また、MCのメリット等を飼い主に説明し、理解してもらえたことが要因になったと思われる。

成果から明らかになった課題

- 犬の場合、狂犬病予防法に基づく登録との二重登録になり、現在のところ任意であるMCの装着にかかる費用を負担に感じる飼い主もいる。
- MCの装着はしているが、AIPOへの登録がされていない犬猫もいる。
- 迷子の検索で、一部のペットショップ等が利用している他のシステムに登録している例もあり、AIPOを含め、3ヶ所に問合せをした事例も過去にあった。登録の一元化がなされていない。
- 検索はできたが、登録した飼い主と連絡がとれない場合や、犬猫を他人に譲渡後、登録情報の変更手続きがされていない場合に、返還も譲渡もできない状態となり、対応に苦慮した例があった。譲渡や転居の際に、連絡先等飼い主情報を変更していないと、飼い主がすぐに判明しない場合があるので、変更手続きについても周知を図る必要性を感じた。

課題解決の方向性

- 飼い主へのMC装着のメリットなどの周知・啓発は、動物病院等からの説明が効果的と思われることから、保健所と動物病院等の連携によりMCの普及を進める。
- MCの装着を含む所有明示の実施について、広報等により啓発を図る。
- MC装着に係る費用を負担に感じる飼い主もいることから、メリットを実感できる身近な事例を周知することが必要と思われる。
- MCのAIPOへの登録を推進するため、県獣医師会や動物病院の協力を得ながら、飼い主への周知を図る。

その他

- 近年、警察署(交番含む)で保護されている犬猫が多くなっているが、現状では、警察署にはMCリーダーを置いていない。外見では、MCの装着が確認できないことから、保健所(収容施設)に収容することとなる。
- 災害時に犬猫が迷子になった場合、首輪等がはずれることが想定されるので、MCの装着は、有効な所有明示の手段と考えられるが、現状では、首輪等に装着した鑑札、注射済票等の補助的な役割を担っているように感じられる。